



編集協力
NPO法人VPDを知って、
子どもを守る会の会

名管理事長 菌部 友良先生



ワクチンで予防できる
病気って？

医療機関名



（歳7～0）表1 ヌールエジケ種接防予



ワクチンで予防できる病気って？

VPD: Vaccine Preventable Diseases

- **B型肝炎**
感染力の強いウイルスによる病気です。体内に入り、肝臓に炎症がおきた状態が続くと（慢性化・キャリア）、肝硬変や肝臓がんが起ることがあります。
- **ロタウイルス胃腸炎（ロタウイルス感染症）**
5歳までにほとんどの乳幼児が感染し、主な症状は下痢、嘔吐、発熱です。脱水を伴う重症胃腸炎の主な原因で、脳炎・脳症などの合併症もみられます。
- **ヒジ（インフルエンザ菌b型）感染症**
5歳未満の乳幼児の感染がほとんどで、細菌性（化膿性）髄膜炎や敗血症などを引き起こします。髄膜炎の初期は風邪と区別がつきにくいです。
- **肺炎球菌感染症**
子どもの細菌性（化膿性）髄膜炎や敗血症、肺炎や細菌性中耳炎などを起こします。髄膜炎の初期は風邪と区別がつきにくいです。
- **ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ**
ジフテリア：のどに菌がついて息ができなくなり。百日せき：強い咳き込みが起ります。破傷風：土の中にいる菌が傷口から感染し、けいれんなどを起こします。
- **ポリオ**：小児麻痺と呼ばれる病気で、人から人へ感染します。感染してもほとんどが無症状ですが、症状が出る場合は麻痺を生じます。
- **結核**
結核菌が肺や脳を包む髄膜などに炎症を起こします。乳幼児では重くなることが多いです。
- **B型肝炎**
感染力の強いウイルスによる病気です。体内に入り、肝臓に炎症がおきた状態が続くと（慢性化・キャリア）、肝硬変や肝臓がんが起ることがあります。
- **ロタウイルス胃腸炎（ロタウイルス感染症）**
5歳までにほとんどの乳幼児が感染し、主な症状は下痢、嘔吐、発熱です。脱水を伴う重症胃腸炎の主な原因で、脳炎・脳症などの合併症もみられます。
- **ヒジ（インフルエンザ菌b型）感染症**
5歳未満の乳幼児の感染がほとんどで、細菌性（化膿性）髄膜炎や敗血症などを引き起こします。髄膜炎の初期は風邪と区別がつきにくいです。
- **肺炎球菌感染症**
子どもの細菌性（化膿性）髄膜炎や敗血症、肺炎や細菌性中耳炎などを起こします。髄膜炎の初期は風邪と区別がつきにくいです。
- **ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ**
ジフテリア：のどに菌がついて息ができなくなり。百日せき：強い咳き込みが起ります。破傷風：土の中にいる菌が傷口から感染し、けいれんなどを起こします。
- **ポリオ**：小児麻痺と呼ばれる病気で、人から人へ感染します。感染してもほとんどが無症状ですが、症状が出る場合は麻痺を生じます。
- **結核**
結核菌が肺や脳を包む髄膜などに炎症を起こします。乳幼児では重くなることが多いです。
- **麻疹（はしか）風しん（三日はしか）**
麻疹：感染しやすくて発熱、せき、発疹が生じ、肺炎や脳炎などの重い合併症が多い病気です。風しん：軽い風邪の症状から始まり、発熱、発疹、首のリンパ節の腫れを生じます。
- **水痘（みずぼうそう）**
水ぶくれが体に出来ます。また、脳炎、肺炎、皮膚の重い感染症などの合併症で毎年死亡者がでています。
- **おたふくかぜ（流行性耳下腺炎・ムンプス）**
耳の下の唾液腺が腫れます。また、脳炎、重い難聴や無菌性髄膜炎などの合併症もみられ、死亡する場合もあります。
- **日本脳炎**
主に感染した豚から蚊を介して感染し、高熱、けいれんなどの症状を示す脳炎を引き起こします。
- **インフルエンザ**
毎年流行して、肺炎や、子どもでは脳炎を起します。
- **HPV**
性的接触によって感染します。ほとんどの場合はウイルスが自然に排除されますが、長期間の感染が続くと子宮頸がんを引き起こします。
- **髄膜炎菌感染症**
髄膜炎菌が原因で敗血症や髄膜炎などを引き起こします。他の細菌による髄膜炎と比べて症状が急激に進行することが特徴です。



0～7歳までの予防接種スケジュール表

ワクチンデビューは生後2か月の誕生日

各ワクチン接種に関するご質問などは、かかりつけ医、または各市町村にご相談ください。

誕生日

年 月 日

ワクチン	0歳	1か月	2か月	3か月	4か月	5か月	6か月	7か月	8か月	9か月	10か月	11か月	1歳	1か月	2か月	3か月	4か月	5か月	6か月	7か月	8か月	9か月	10か月	11か月	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	小学校 7歳	備考	
不活化 定期 B型肝炎 (母子感染予防を除く)			①	②																											0歳のうちに3回接種が必要です。3回目は、2回目から4～5か月の間隔をあけて受けます。	
生 定期 ロタウイルス (飲むワクチン)			①	②	③																										2種類あります。生後2か月から接種を開始し、どちらか1種類をそれぞれの必要回数受けましょう。	
不活化 定期 ヒブ (インフルエンザ菌b型)			①	②	③																										長期にわたって予防効果を維持するためには追加接種が必要です。	
不活化 定期 小児用肺炎球菌			①	②	③																										長期にわたって予防効果を維持するためには追加接種が必要です。	
不活化 定期 四種混合 (ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ) 三種混合・ポリオ			①	②	③																										長期にわたって予防効果を維持するためには追加接種が必要です。11歳で二種混合(DT)ワクチンを追加接種します(接種対象11～12歳)。	
生 定期 BCG (結核)						①																										
生 定期 MR (麻しん風しん混合)																															第1期は1歳、第2期は小学校就学前1年間(4/1～3/31)にMRワクチンか、麻しんおよび風しんの各々のワクチンを2回接種します。	
生 定期 水痘 (みずぼうそう)																																追加接種は、初回接種から3か月の間隔をあけて受けましょう。
生 任意 おたふくかぜ																															1歳になったら接種が可能です。	
不活化 定期 日本脳炎																															標準的な接種スケジュールは、第1期:3歳から4歳で1～4週間隔で2回、その後概ね1年の間隔をおいて、4歳から5歳で1回接種、第2期:9歳で追加接種します(接種対象9～12歳)。	
不活化 任意 インフルエンザ																															毎年、10月から11月ごろに2回接種(2～4週間隔)しましょう。	
不活化 定期 HPV (子宮頸がん)																															小学校6年生になったら受けましょう(定期接種の対象:小6から高1の女子)。日本産科婦人科学会など関連団体も接種を推奨しています。	
不活化 任意 髄膜炎菌																															2歳から受けられます。海外留学や寮生活をする人などは接種がすすめられます。	
渡航ワクチン																															海外渡航の際には、上記のほか、黄熱、A型肝炎、狂犬病などワクチン接種が必要な場合があります。渡航が決まったら、なるべく早くトラベルクリニック等で予防接種の相談をしましょう。	

不活化 細菌やウイルスの毒性をなくして、免疫をつけるために必要な成分を取り出して作ったワクチン。
生 生きて細菌やウイルスの毒性を弱めて作ったワクチン。

定期 定められた期間内で受ける場合は原則として無料(公費負担)。
任意 多くは有料(自己負担)。自治体によっては公費助成があります。

定期接種の対象年齢
任意接種できる年齢

標準的な接種時期(数字は接種回数)
医師が特に必要と認めた場合には、複数のワクチンを同時に接種することができます。詳しくは、かかりつけ医に相談しましょう。